

ことになつたものか、余の見るところでは次の通りである。最初に侵略して來たアラビア人がカーピシーの都を根本的に破壊し盡したと云ふのは怪しいものである。何故かと云ふと、チャリカール *Tcharikâr* に接する「ベグラーム」の無盡藏な地中から、印度希臘及びクーシャーン時代の古錢に混じて、古代のアラビア銘記を見る古錢が出るからである。然し、法師が二度目に此處を通つて數年経つか経たぬ紀元六五二年、次で六六四年に受けた侵襲は、少くとも首都としてのカーピシーの衰運拋棄の合圖になつた筈である。印度に通ずる本道上に位置するのが甚だ不完全だと思つて拋棄することにしたものか、兎に角、八七〇年にトルコ人種で佛教信者であつた當時の王がヤクブ・ベン・ライス *Yakoub ben Lais* の捕虜にされたと思はれるのは矢張りカーブール(恐らくシャワキー *Shévaki* に近い「ベグラーム」の舊カーブールであらう)に於てであると言されてゐる次第である。カピシュ *Kapish* と云ふ名稱に關する記録としては、十一世紀にアルビルーニ *Albiroûni* の書いたものが最終の記録となつてゐるが、それに依ると、當時既に此の名稱はカーブール地方の舊名たるに過ぎなかつ